

原発問題住民運動福井県連絡会 総会議案

2012年10月21日

一、原発をめぐる情勢と住民運動

福島原発事故後一年半を経た現在も継続しており、被害はなお広がっています。福島県の避難者は十六万三千人に達し、県内外での過酷な生活を余儀なくされています。甚大な被害を受けた県内の全産業部門の回復が遅れ、人口減少に拍車をかけています。今後とも長期にわたって放射能汚染と向き合いながら、働く・学ぶ・子育てする生活が強いられます。

福島原発事故以来、「原発からの撤退」「原発ゼロ」「脱原発」の一点での全国的な共同行動が大きく発展しています。「だれでも参加できる」「子ども連れでも参加できる」ことへの特段の配慮がはらわれて次の新たな共同行動への輪を広げています。これらの背景に、「原発からの撤退」「原発ゼロ」「脱原発」をめぐる生活レベルにおける国民的対話が広がり、深部における国民意識の大きな変化を多くの国民が感じています。

一方、野田政権は「原発輸出」に加え、大飯原発3・4号機の「再稼働」を「政治判断」しましたが、これは「3・11」以前への安易な「回帰」であり、国民の安全に背を向けるものです。原発再稼働しなくても夏場の電力は足りていたことが明白になった今、すぐに原発を停止し国民の安全を第一に考えることこそ野田政権はすべきです。

日本での原発立地は、技術上 苛酷事故、老朽化の危険、経済上 苛酷事故防止安全対策をしない危険、地質上 地震国での立地の危険、地理上 人口密集・集中立地の危険、行政上 国際規制機関の不在の危険、営業上 営利優先の危険をもつものです。国と電力会社は、これら原発の危険を、国民の目から覆い隠すために、「安全神話」を振りまき、「日本では苛酷事故は起こりえない」とまで宣言しました。これを推進した国と電力会社、御用学者の「産・官・学」癒着の「原子力村」の責任は重大です。

原発は「原子力の平和利用」として世界的に推進されてきましたが、「原子力の平和利用」とは無縁のものです。また、原発の技術上の危険は、安全性・経済性無視の軍事開発自体が本質的にもつものにほかなりません。福島原発事故は、「核兵器のない世界」と合わせて、「原発ゼロの日本」を実現することの重要性を改めて示しています。

日本のエネルギー問題で日本にある再生可能エネルギー、加えて新エネルギー、省エネルギー、従来のエネルギー技術の効率化と環境対策の徹底へ向けての本格的取り組みが必要です。欧米では常識の、自治体が主役となり、市民参加型のエネルギー・ネットワークを構築することが重要です。

私たちは、福島の被災者に心を寄せ、福島の復興支援と合わせ、原発事故の最大の教訓としての「原発からの今すぐ撤退」への合意形成に向け、幅広く国民的対話・議論を進めましょう。

二、この間の活動報告

原発運動住民運動全国センターの福井県連絡会として県民会議とともに古くから原発運動に携わっています。福井県の県労連、新婦人、科学者会議、民医連、民商、嶺南センター、共産党の各団体と個人で構成している。福島事故以前の活動では、福井県と原発三社への申し入れ活動や原発の安全性を考える学習講演会、新エネルギーとして風車・風力企業見学ツアーなどを行ってきました。本年は、「さよなら原発福井県集会 in つるが」の成功に向けて呼びかけ人、事務局、地域の実行委員会として中心的役割を果たすとともに、「大飯原発再稼働」阻止の運動を全国や福井県内の幅広い団体と協力して進めてきました。

集会

(共同)

3月11日(日)さよなら原発福井県集会 in つるが	1200人
3月25日(日)大飯原発3・4号機の再稼働に反対する緊急集会ふくいから未来を開こう!	700人
6月 3日(日)緊急抗議集会 いのちが大事 今なぜ再稼働?ふくいであつなろうパート1	540人
6月17日(日)いのちが大事 今なぜ再稼働? ふくいであつなろうパート2	2200人

(単独)

4月22日(日)再稼働を許さない緊急集会 in 小浜	400人
----------------------------	------

市民行進

毎月11日をメモリアルに昨年7月より福井市西部(光陽生協クリニック前)から福井市中央公園まで約3、5キロを行進。参加数は、30名~110名と各月ばらつきがありました。

4月11日(水)110人	5月11日(金)40人	6月11日(月)50人	
7月11日(水)40人	8月11日(土)50人	9月11日(土)60人	10月11日(土)70人

申し入れ・声明・要請行動

3月15日(木) 福井県	「関西電力・大飯発電所3号機4号機の運転再開に対して慎重な判断を求める」申し入れ
4月 6日(金) 福井県	「関西電力・大飯原発3号機4号機の再稼働を認めないように」緊急の申し入れ
4月11日(水) 福井県	「福島第一原発の事故の収束も見えず原因究明が不十分な現状で大飯原発再稼働に同意しないように求める」申し入れ
4月14日(土)	枝野経産大臣の福井県知事との懇談に対する抗議行動
4月23日(月) 福井県	「大飯原発の再稼働を認めず原発とさよならする決断を求める」申し入れ
5月 7日(月)	おおい町長 「大飯原発3、4号機の再稼働について慎重な判断を求める」申し入れ
5月 7日(月)	〃 議会「大飯原発3、4号機の再稼働について慎重な判断を求める」申し入れ
5月18日(金)	おおい町議会「大飯原発3、4号機の再稼働容認について強く抗議する」申し入れ

5月18日(金) おおい町長 「大飯原発3、4号機の再稼働について慎重な判断を求める」申し入れ
6月4日(月) 細野原発担当大臣と福井県知事との懇談に対する抗議活動
6月12日(火) 福井県議会 「関西電力大飯原発3、4号機の再稼働について拙速に判断せず福井県議会で十分な審議を求める」申し入れ
6月17日(日) 福井県 「大飯原発3号4号機の再稼働の同意について強く抗議する」声明
4月～5月 知事と福井県の全県会議員に向けてハガキ、電話、メール、ファックスにて「再稼働許すな」の働きかけを行う。

署名

3月11日(日) 政府 「さよなら原発1000万人署名」……………908筆提出
4月11日(水) 福井県 「福井県の原発県政の転換を求める署名」……………7227筆提出
5月18日(金) おおい町長 「大飯原発3、4号機の再稼働について慎重な判断を求める署名」
……………1155筆(おおい町民110筆含む)提出

おおい町訪問対話行動

4月26日(木)～5月6日(日) 4月27日から「おおい町住みよい町造りの会」と協力して「再稼働許さない共同センター」をおおい町内に設置し、「大飯原発再稼働について慎重な判断を求める署名」を持ちおおい町民訪問対話行動を行いました。短期間ながら全国支援も含め107名が訪問行動に参加し約900戸訪問。「再稼働に対し慎重な判断を求める署名」の収集と住民対話を行いおおい町民約3百人の聞き取りをまとめ5月7日に町長と全議員に渡しました。

福井県庁前抗議活動

5月21日(月)～6月16日(土)5月21日から連日県庁前にて「再稼働は慎重に！安全に不安という多く県民の声を聞いて」と横断幕・プラカードにて宣伝座り込み署名・要請行動は、収集した署名505筆、提出署名566筆、募金61409円、連日県内県外から100団体、450名を越える参加者で抗議宣伝行動を展開しました。

学習・講演活動……………各団体の専門分野で講演・学習活動を行っている。

平野 治和氏(民医連)……………現在光陽生協病院・院長。内科 労働衛生コンサルタント。医師の立場から原発事故と健康影響について県内県外問わず全国へ講演をおこなっている。脱原発医師全国100ヶ所行脚と題して現在80か所以上終えている。|論文「福島原発事故と子供の健康影響」『税経新報』2011年7月号「いかに原発労働者の健康を守るか」『法と民主主義』2011年7月号「直ちに健康に影響を及ぼさないとは」『福井の科学者』2011年6月号など。

講演先 県内 福井市、越前市、鯖江市、敦賀市、あわら市、坂井市、公民館では足羽、清水東公民館で行いました。県外 福島(伊達町)、石川(金沢市3か所、白山市、小松市、加賀市)、富山(富山市)、岐阜(岐阜市、関ヶ原、大垣)、京都(舞鶴、綾部)、愛知(一宮、名古屋市)、三重(津)、大阪(西成)、奈良(大和郡山)、新潟市

山本 富士夫氏(科学者会議)……………福井大学名誉教授、流体力学が専門で2010年度に日本混相流学会「学会賞」を受賞している。福島事故を受け、「全原発の運転を断念すべきだ」との見解を示し

県内・県外で精力的に講演活動を展開している。3・11さよなら原発福井県集会の呼びかけ人代表、再稼働問題でゆれる国会内で民主党から参考意見を聞かれる科学者会議のメンバーのひとりとなった。

山本 雅彦氏(全国センター)……原発問題住民運動全国連絡センターの代表委員のひとりで元原発労働者。現在は、日本共産党嶺南地区委員長を務める。全国より理論と運動とも高く評価されている。福島事故以来、全国各地からの講演の要請を受けて、講演活動を行っている。

猿橋 巧氏(共産党)……現在、日本共産党おおい町会議員。関西電力大飯原発3・4号機の再稼働問題でただひとり再稼働に反対を貫いたおおい町議として全国から注目を浴びる。県内外から講演の依頼がきている。

教訓と課題

1、さよなら原発や再稼働反対 撤回を求める一点共闘を広げて、県民の世論に喚起して体制側を包囲する。

「3・11さよなら原発福井県集会」や「いのちが大事 今なぜ再稼働？ ふくいであつなろう」で実践され福井県民の参加も大幅に増加する結果となりました。

2、嶺北の「無関心」嶺南・立地自治体の「複雑な心情」に対して、どう対策を進めていくべきか？

これだけ原発をゼロへ再稼働反対の世論が盛り上がりながらも残念ながら、嶺北・福井では、「無関心」層が老若男女に相当数存在する。逆に嶺南の立地自治体は、原発への関心は高いが雇用問題が足かせとなって発言できない雰囲気が強く内包している。

3、継続した粘り強い住民運動の構築が必要不可欠

おおい町で「おおい町造りの会」が復活し署名収集を4月に進めたが、今必要なことは、立地自治体の住民が粘り強く運動を構築して立地自治体の住民意識を高めていくことである。

三、役員体制案

代表委員・事務局の合同会議を定期化し、「個人まかせ」にしない体制と幅広い団体へ参加と協同を広げる活動を強化します。

代表委員 奥出春行、多田初江、河内 猛、佐藤正雄

幹事 各団体1から1～2名を選出

・嶺南センター 北原武道 ・共産党 宇野邦弘、山川知一郎

・民医連 奥出春行、林広員 ・科学者会議 山本富士夫

・新婦人 多田初江 ・県労連 平澤 孝

・県商団連 () ・うたごえ協議会 辻 勲

事務局 民医連 (林 広員、錦織龍彦)

四、今後の活動方針

大飯原発再稼働の撤回をめざす運動を幅広い団体とともに取り組みます

原発をいまずぐゼロへ向けた決断を政府に求めるため運動を強めます

11・11東京大包囲100万人集会に連動し福井で県民集会を取り組みます
「さよなら原発福井県集会」(仮)として11月11日(日)午後～お昼12時、中央公園で集会後市民行進を行う。東京、三国のコンサートとも連携して進めます。

2013年の3・11企画として3月10日(日)に共同で福井県集会を企画します
福井市のフェニックスプラザ大ホールにて開催します。

学習会の開催・毎月継続して開催を計画し、学び交流します
県連絡会主催の学習講演会や嶺南センター、民医連、科学者会議や実行委員会での講演会や学習会に積極的に参加します。

福井原発訴訟への参加を推進します
福井から原発を止める裁判の会(弁護団長 佐藤弁護士 事務局長 笠原弁護士)の成功めざして原告(支える会)を増やす活動に取り組みます。

広範な団体との原発なくせの一点共闘を推進します
ふくいであつなごろう実行委員会・さよなら福井県ネット・ピースアクション実行委員会・原発反対福井県コラボ、小出裕章さん講演会実行委員会などと共同行動し参加を進めます

全国運動への連帯・合流する活動進め広めます
「原発をなくす全国連絡会」に連帯して全国集会・首都圏行動へ代表派遣を進めます
映画:日本の青空 「さよなら原発」制作を成功させる会に取り組みます。